

しあわせ実感都市 大村



熱気溢れる「夏」

夏越総踊り



いろどりの「春」

大村公園

発刊のあいさつ

大村市長
園田 裕史



大村市は、昭和17年2月11日に1町5村が合併して誕生し、今年で市制施行82周年を迎えました。

海上空港である長崎空港や高速道路インターチェンジなど、交通アクセスに優れた大変住みやすいまちであり、県内自治体の中で最も高齢化率が低く、人口が50年以上増加し続けている唯一の都市として発展を遂げています。令和4年9月には西九州新幹線が開業し、4キロメートル圏内に空港、高速道路インターチェンジ、新幹線駅の高速度交通が集約される高い交通利便性を有するまちとして、さらなる発展が期待されています。

本市の歴史は古く、日本初のキリシタン大名・大村純忠は、初の公式ヨーロッパ訪問団「天正遣欧少年使節」をローマに派遣しました。また、大村藩は幕末勤王派に属し、近代日本の礎を築いた幾多の偉人を輩出してきました。

一方、「日本さくら名所100選」の地に選出された大村公園では、春は国指定天然記念物であるオオムラザクラをはじめ、約2千本の桜が咲き誇り、多くの観光客でにぎわいます。初夏には、約30万本のハナシユウブが見頃を迎え、花のまち大村を彩ります。

これからも、赤ちゃんからお年寄りまで、市民全ての皆さまが大村市で生まれて、成長して、暮らして、住み続けて、最期を迎えたいと想えるようなまちにするため、「市民一人ひとりが一つになった『ONE OOMURA』のまちづくり」の実現に、全身全霊で取り組みます。

令和6年2月

～行きたい、働きたい、住み続けたい～



おおむらロードレース大会



福重梨(フルーツの里ふくしげ)

もくじ 大村市市勢要覧

大村の…

31	30	29	28	27	26	24	22	21	20	19	18	17	15	14	12	11	10	8	7	6	4
ポートレース大村	財政	地域コミュニティの活性化・男女共同参画の推進	市議会	環境対策	新幹線を活かしたまちづくり	都市計画	観光	商業	工業	農林水産業	防災・防犯対策	スポーツ	福祉	教育	子育て	国際・地域間交流	歴史と文化	M A P	概況	自然	まちづくり